

(別添資料)

情報活用能力の体系表【例】の活用について

1 学習指導要領における情報活用能力

学習指導要領で「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力として例示されました。

学習の基盤となる資質・能力（第1章 第2の2の(1)）

各学校においては、児童（生徒）の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。



「学習の基盤となる」とは？

- 各教科での学びの支えになる力
- 生涯学び続けるために必要な力

情報活用能力とはどんな力か？

学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むものである。

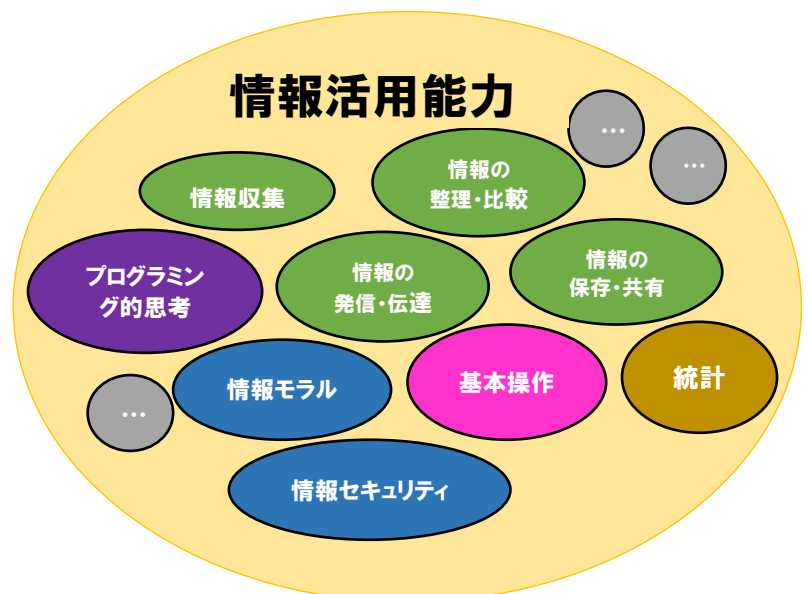
(学習指導要領総則編より抜粋)

このように、情報活用能力は非常に多岐にわたった資質・能力であり、コンピュータを使った内容に限定されるものではありません。

ただし、情報活用能力の中には「情報手段の基本的な操作」というものも含まれるため、キーボードによる文字入力、電子ファイルの管理、文書作成ソフト・プレゼンテーションソフト等の基本的な操作技能についても育成する必要があります。

また、プログラミング教育に関わる「プログラミング的思考」や「情報モラル・情報セキュリティ」も情報活用能力に含まれます。

そのため、各学校が教育活動（各教科）の中で意図的にカリキュラム・マネジメントを行いながら取り組むことが大切になります。



2 教科等横断的な育成

情報活用能力をどのように育成していくのか。学習指導要領では次のように示されています。

情報活用能力は、各教科等の学びを支える基盤であり、これを確実に育てていくためには、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要であるとともに、そうして育まれた情報活用能力を発揮させることにより、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが一層期待されるものである。（学習指導要領総則編より抜粋）



ポイント1：各教科の特質に応じて適切な学習場面で育成を図る

教科等の特質を考え、情報活用能力のどんな力を各教科のどの単元で育成するか、検討することが重要です。

ポイント2：育まれた情報活用能力を発揮させる

育成した情報活用能力を子ども達が自ら活用できるようになることが重要です。子ども達が「自ら学ぶ」ためにICTを活用できるようになることを意識し、情報活用能力を発揮させる場面を設定しましょう。子ども達が情報活用能力の有用性を実感しながら活用できるようになることが大切です。

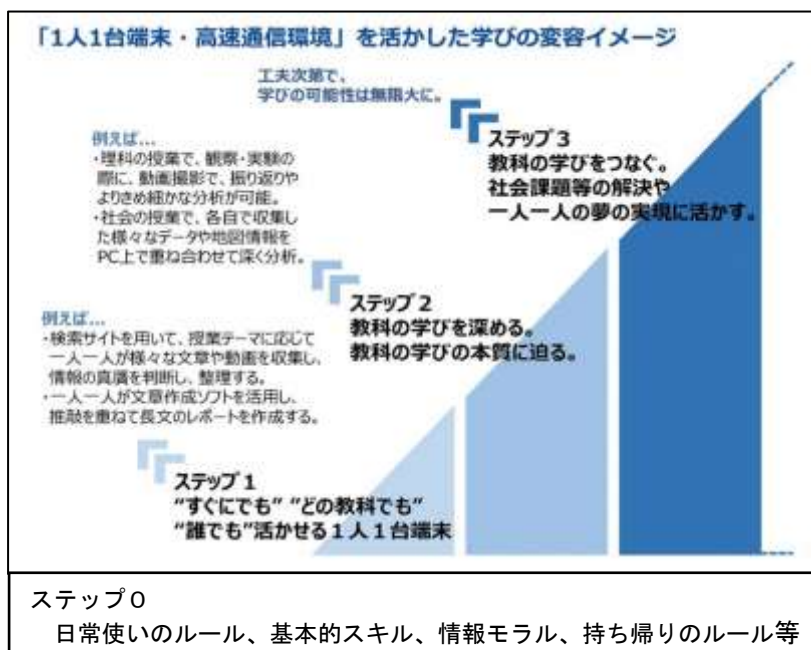
ポイント3：各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつながっていく

ICTを適切に活用した学習活動によって、児童生徒の情報活用能力を育み、その情報活用能力を発揮させ、例えば、情報の発信・伝達などを通して主体的・対話的で深い学びを実現していくことが大切です。

3 段階的育成

小中9年間を見通して段階的に情報活用能力を育てていくことが大切です。「GIGAスクール構想」に示されている「学びの変容イメージ」を参考に、子ども達の具体的な学びの姿として明確に持てるようにしましょう。（ステップ0は加筆）

特に基本的スキルについて、小中連携を図り、小学校までの習得状況を確認して、中学校で更に伸ばしていけるように計画・実践していくことが大切です。



4 情報活用能力の体系的整理

情報活用能力を、各学校段階・各教科等の学習活動を通じて体系的に育成する必要があります。文部科学省が発行した「学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成」では、①情報活用能力の要素、②情報活用能力育成のための想定される学習内容の2つの観点から例示しています。



体系的な整理 1 情報活用能力の要素の例示

情報活用能力をより具体的に捉えていくことを目指すとともに、教科等横断的な視点で育てていくことができるよう、情報活用能力の要素を例示しています。

| | | 分類 |
|------------------------|---|--|
| A. 知識及び技能 | 1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 | ①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解 |
| | 2 問題解決・探究における情報活用の方法の理解 | ①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解 |
| | 3 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解 | ①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解 |
| B. 思考力、判断力、表現力等 | 1 問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む） | 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力 等 |
| C. 学びに向かう力、人間性等 | 1 問題解決・探究における情報活用の態度 | ①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度 |
| | 2 情報モラル・情報セキュリティなどについての態度 | ①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度 |

体系的な整理 2 情報活用能力育成のための想定される学習内容

情報活用能力を各教科等の特質に応じて適切な学習場面での育成を図るため、想定される学習内容を次の4つに位置付けています。

| 想定される学習内容 | 例 |
|----------------------------------|--|
| 基本的な操作等 | キーボード入力やインターネット上の情報の閲覧など、基本的な操作の習得等に関するもの 等 |
| 問題解決・探究における情報活用 | 問題を解決するために必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、解決への見通しをもつことができる等、問題解決・探究における情報活用に関するもの 等 |
| プログラミング（問題解決・探究における情報活用の一部として整理） | 単純な繰り返しを含んだプログラムの作成や問題解決のためにどのような情報を、どのような時に、どれだけ必要とし、どのように処理するかといった道筋を立て、実践しようとするもの 等 |
| 情報モラル・情報セキュリティ | SNS、ブログ等、相互通信を伴う情報手段に関する知識及び技能を身に付けるものや情報を多角的・多面的に捉えたり、複数の情報を基に自分の考えを深めたりするもの 等 |

5 情報活用能力の体系表【例】（県中教育事務所版）の活用

上記1～4を踏まえ、情報活用能力の体系表【例】を作成しました。

体系表の活用については、各校の創意工夫により様々な方法が考えられますが、期待される4つの活用方法について紹介します。

期待される体系表【例】の活用方法

○ ビジョンを共有する

学校の教育目標、学校経営ビジョン等と照らし合わせて、そもそも子どもたちに育成する情報活用能力とはどんなものなのか、内容の共通理解をするのと同時に、体系として捉えていくことが大切です。

今回示した体系表【例】をベースにしながら、情報活用能力について教職員間で共通理解を図り、各校における体系表を作ることから始めてほしいと思います。

例) 情報教育における重点目標の設定・見直し

学年毎の目標リスト作成

○ 情報活用能力育成状況の目安とする

この情報活用能力の体系表【例】は、児童生徒の発達の段階等をイメージして作成しています。そのため、児童生徒の情報活用能力がどこまで育まれているのかを確認する目安として活用することも可能です。実態把握や評価基準の作成に活用することも考えられます。

例) 保護者や児童生徒を対象とした情報活用能力に関するアンケートの作成

教師用アンケートの作成

情報活用能力に関する評価テストの作成

○ 年間計画に位置付ける（カリキュラムマネジメント）

情報活用能力を学校の教育活動全体において育成するという視点を持ち、どの情報活用能力をいつ、どの教科・単元で育成・発揮させるか検討しましょう。情報活用能力の育成は、現在の指導内容に新たに追加されるものではありません。既存の指導を捉え直し、改めてその育成を意識して授業やカリキュラムを見直してみましょう。

各校の実情に応じて重点内容（基本的な操作、問題解決・探究における情報活用、プログラミング、情報モラル・情報セキュリティ）を決めて取り組むことも考えられます。

例) 単元配列表への位置付け【具体例（次ページ）】

各教科の年間指導計画への位置付け

○ 小中連携に位置付ける

中学校区で、課題や工夫を共有できるとより効果的です。自校だけでは解決できない問題も多く発生すると思われます。体系表【例】を基に、キーボード入力スキルなどの基本的操作、情報モラル・セキュリティ指導など、9年間を見通して連携して育成することができます。

例) 中学校区で情報教育委員会を設置

◇ 単元配列表への位置付け【具体例】

情報活用能力の体系表【例】の4要素（A1～D7）を、各学年のどの教科、単元で育成するのかを単元配列表（県中教育事務所Webページからダウンロード可能）に位置付けます。

1つの要素について重点化を図って作成することも考えられます。

【4要素】

- 基本的な操作（A1～A5）
- 問題解決・探究における情報活用（B1～B13）
- プログラミング（C1～C7）
- 情報モラル・情報セキュリティ（D1～D7）

各教科の特質を生かしながら、教科等横断的な視点から、どの情報活用能力を育むのか単元配列表等を使って見える化し、バランスよく、意図的・計画的に育成できるようにします。

参考資料

学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt_jogai01-100003163_1.pdf

次世代の教育情報化推進事業「情報教育の推進等に関する調査研究」成果報告書（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1400796.htm